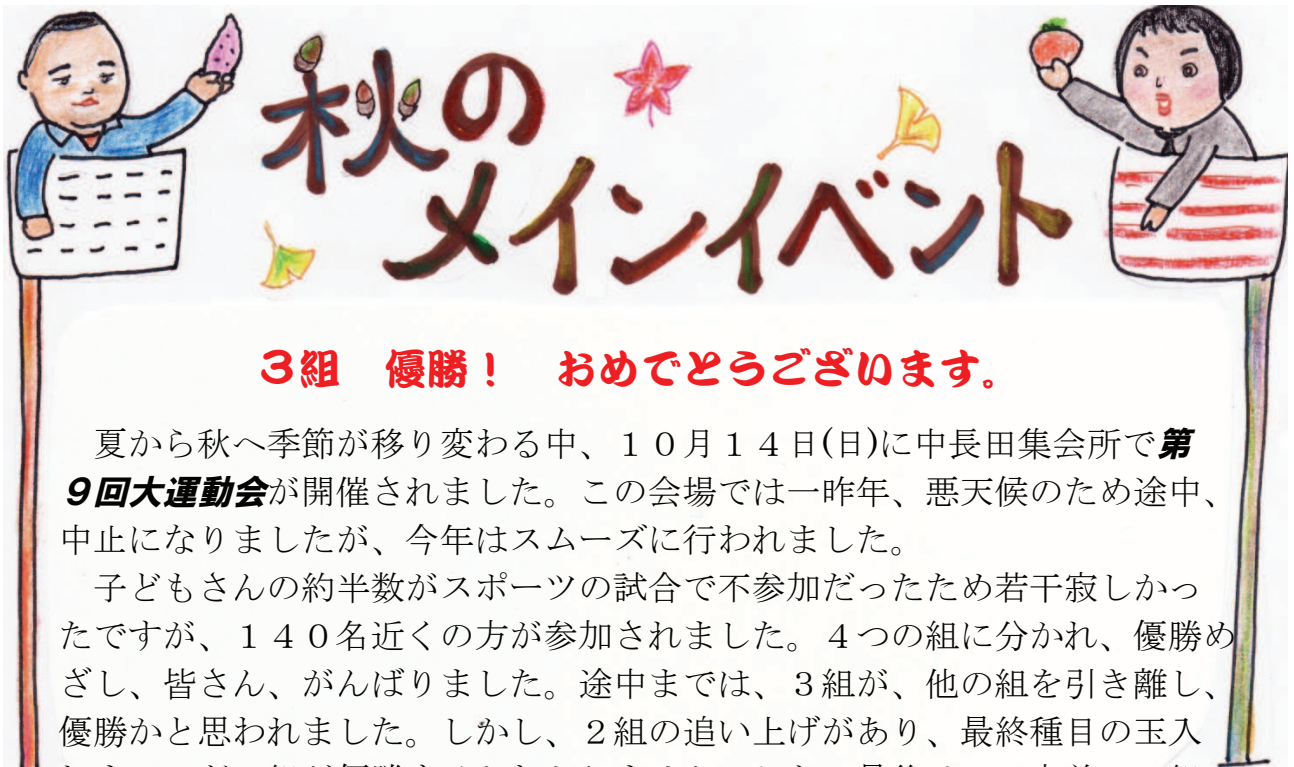


長田下地域 振興会だより 第15号

2012年(平成24年)12月6日発行



3組 優勝! おめでとうござります。

夏から秋へ季節が移り変わる中、10月14日(日)に中長田集会所で**第9回大運動会**が開催されました。この会場では一昨年、悪天候のため途中、中止になりましたが、今年はスムーズに行われました。

子どもさんの約半数がスポーツの試合で不参加だったため若干寂しかったですが、140名近くの方が参加されました。4つの組に分かれ、優勝めざし、皆さん、がんばりました。途中までは、3組が、他の組を引き離し、優勝かと思われました。しかし、2組の追い上げがあり、最終種目の玉入れまで、どの組が優勝するかわかりませんでした。最後は、2点差で3組が逃げ切り、優勝しました。わたしは、2組で優勝できませんでしたが、楽しい運動会、本当にありがとうございました。

また、どのチームも、皆さん積極的に出場され、座って休むことが少なかったです。それに、昼食のうどんとおにぎりもおいしかったです。早くから準備されたのだと思います。参加賞もいろいろと準備されており、お世話になりました。

小学4年生益田慎乃祐君の「来年も皆さん頑張りましょう」の閉会宣言どおり次回もたくさんの方の参加をお待ちしています。これからひと雨ひと雨ごとに寒くなっていきます。皆さんお元気でお過ごしください。

(担当: 火上保雄、児玉尊子)



7/21 あそびの楽校

あそびの楽校よもやま話

3年位前、子育て真っ最中の親御さんから「子どもたちに手づくりのあそびを経験させたいんじやが、なんせわたしらも経験がないので・・・」という相談を受け、「それならば」とできたのが「あそびの楽校」です。幸いにも社会福祉協議会の助成も受け、活動に力が入りました。縄文の池やちゃらんの広場という自然を生かした環境があり、また、手づくり名人の方々の協力を得て、子どもから高齢の方までの交流の場となっております。「あんたどこの孫なら・・・」「あんたの爺さんには世話になったんで・・・」という会話も飛び交います。

今年も田植え、ピザづくり、メダカとりなど、子どもたちに大人の技を受信してもらいながら、手づくりの面白さを経験しています。



▲縄文の池をきれいにしました



▲みんなで田植えガンバリました

9/1 ひとはまつり

ひとはまつり事務局 田中秀典さんとの対話から・・・

～キーワードは「楽」と「笑」～

田中さんからは、さる9月1日(土)の第11回ひとはまつりについて次の様なメッセージを頂きました。

「例年より少し遅い開催となりましたが、多くの方々においでいただき大変盛り上がったと思います。何よりも主催者であるきららの仲間のはちきれんばかりの笑顔が印象的であり、ご出演いただいた方々やご来場いただいた方々のいっしょに楽しまれている様子を、大変ほほえましくうれしく思いました。地域とのつながりを大切にしながら、きららの人たちが自分らしく生きていける文化を大切に、また発信していく為にも、今後ともご支援ご鞭撻のほどよろしくお願いします。本当にありがとうございました。」

本当に暑い夏の夕ではありましたが、参加者の皆さんの交流は深まりましたね。地域にとっても、各地からの多くの人々との交流は大切なものです。



▲美味しいものが一杯でした



▲ステージも盛り上がりました

「下長田地区の文化財保護と伝承」について考える⑥

獅子舞

今回は、下長田地域で行われている「獅子舞」について考えてみました。

獅子舞は、この地域の五穀豊穡や住民の安全などを祈願するもので、今日まで、地域の皆さんの厚い信仰心に支えられ、ずっと受け継がれています。

祭事の前日までに、社殿の掃除や幟を立てるなどの準備をしますが、掃除は言うまでもなく、神を迎える場所を清めるために行い、また、幟を立てるのは、神様が天から降りられる「目印」として、天高く、神様によく見えるように設置するのです。幟にも、こうした重要な意味があるのですね。

昔は、長田にも、厳粛な「神儀」があり、慧本様宅などで身支度を整え、薙刀を持った猿田彦を先頭に、神主さん、続いて地域の長老が紋付羽織、袴で、白木の三方に、初穂やお米、野菜、イリコなどを載せ、大人の吹く笛に合わせて、子どもが太鼓を叩き、御輿という順の行列が続きました。長田神社の境内まで行進したのです。太鼓の練習は、夏休みを利用して、指導者たちから口移しで、私たち子どもに「トンカコ、トンカコ、トンカコカ」というように、何度も練習して、当日を迎えました。練習は夜だったので、つかれて眠りながら叩いたのを覚えています。その後、おやつに、あられやいり豆をもらい、おいしかったです。

その行列は、確かお宮の広場を一周したように思います。それから、本殿で神主さんが祝詞（のりと）を奏上され、猿田彦の舞い、そして、獅子舞と続き、お神酒を頂いて、終了というようになりました。

幸い、こうした獅子舞の文化も、長田の明神クラブや六風会の皆さんをはじめ、下長田の有志によって、猿田彦の舞いや獅子舞を上手に受け継ぎ、笛や太鼓、鉦も小・中学生や青年に伝承されてきて、とても意義深いものになっています。

（担当：谷林文男）



▲猿田彦の舞い



▲獅子舞

沖増ミヤコ様 ご長寿お祝い訪問

100歳 おめでとうございます。

笹岡自治振興会会長、犬上、松田の3名が訪問し、笹岡会長よりお祝いの花束・記念品を、沖増ミヤコ様に贈呈いたしました。

～沖増ミヤコ様からお伺いしたお話～

21歳の時、ご結婚され、また、教員採用となり、三次の栗屋小学校に6年間通われたそうです。当時、朝5時に起きて、3時間かけて自転車で小学校に通っていたとのこと。

27歳の時、家族全員で、朝鮮に行かれ、終戦年の8月終わり頃、何も持たない状態で、お子さん2人と夫婦で日本に引き揚げて来られました。その時は、何も無く、本当に大変だったそうです。

日本に帰ってみると、不在地主であったため、所有していた土地は無くなっていたそうです。皆さんに助けられながら、一生懸命働いてこられたそうです。

若いころは、俗に言う「オテンバ」さんだったそうで、男の人とよく喧嘩もされていたそうです。持ち前の負けず嫌いな性格で、教育現場に携わっておられたご主人・お年のおじいさん（義父）に代わって、牛を使って沖増家の田ごしらえをしていたそうです。さらには、戦争で若い男の人が居なかったため、近所の田ごしらえもされていたそうです。

本当に頑張り屋さんです。78歳まで、バイクに乗っておられたそうです。

お話を伺って、本当に波乱万丈100年の人生を歩んでこられた、頑強な方だなあとつくづく思いました。

これからも、お元気に過ごして頂きたいと思いました。

(担当：松田 清)



発行： 長田下地域自治振興会

担当： 広報委員会、企画調整部